

## つなぐりの運動 JA 岩手ふるさとから

調査の現場から（本ページのこと）も早くも3回目。「ブログ風」の割には、「である」調でコメントを発信してしまう。ブログ＝日記だから、今回は思い切って日記調に（しかし皆様からのお叱りを最小限に留めるように）書いてみようと思う。

風薫る5月、岩手県を訪問した。岩手県の特産品（もちろん農業と関係の深い特産品）といえば、ひとめぼれ・前沢牛・南部せんべい・わんこそばなど多種多様だ。前沢牛のステーキ定食（お米はひとめぼれでおかわり自由）なんていうのがあったら...と食いしん坊な私は考えてしまう。このひとめぼれと前沢牛、一見関係がないように思えるが、耕畜連携に一役買っている。地元の稲わらを食んで健康な牛が育ち、その牛たちから有機肥料が供給されるからだ。私は、耕畜連携 循環 環境と連想。よし、今回のテーマは環境にしよう。

環境という言葉を目にする機会は多いが、環境とは私たちをとりまく外界を指す言葉。一応辞書も開いてみたけれど、私の理解でほぼ満点。自然環境・社会環境などと使用される。私たちの身の回りに存在するもの全てが対象だから、環境という言葉はおのずと多義的になる。「循環型の、持続可能な環境をつくりあげよう」とか、「開発による環境破壊から開発による環境の維持・再生へ」は、自然環境への関心とともに使用される。「日本の安全神話は崩壊した」とか「ネット環境など社会インフラの整備」といった場合は、社会環境に関心を寄せたものだ（そういえば e - Japan 戦略の実績について今度調べておこう）。また、身の回りのものが環境だから、その取り組み主体も政府などの組織から個人まで多様である。

話を岩手県に戻そう。岩手県を訪問したのは、JA 岩手ふるさとを訪問したから。JA 岩手ふるすとは、奥州市・金ヶ崎町にまたがる大規模農協だ。この農協管内の農業産出額を見ても、稲作と畜産の比重が高い。この地域は、前述のひとめぼれの主要な産地であり、前沢牛を産出する所なのだ。当 JA では、耕畜連携という持続可能な農畜産業の推進に努力しているだけでなく、他の県下 JA に先駆けて IES を取得した。IES は、環境に配慮した経営を行う意志があるものの、ISO の基準は満たすことができない、または費用が高つくことから導入をあきらめている主体に対し、環境配慮の活動の裾野を広げようという試みで企画されたものである。

JA 岩手ふるさとの自然環境保全に対する主な取り組みは、温室効果ガス排出量の削減と安全な農畜産物の産地化である。具体的には以下の通り。に該当するのは、使用設備で消費される電力・ガソリン・紙などの使用量削減であり、耕畜連携の強化による持続可能な産地づくりや生産履歴の記録による適正管理は に該当する。

これらの取り組みには、本来の目的の他に様々な波及効果がある。は、資源の節約につながり、更に電気代の節約によって、費用削減効果も表れる。当 JA では、取り組み開始後、年間約 300 万円の削減を達成している。についても、JA 管内で生産された稲わらの 4 割近くが畜産に利用され、耕畜連携を通じて米の品質が高められている。

私たちは環境を媒介として相互に依存しあっている。人と人、人との、ものとの間の相互作用を無視することはできない。今回は環境というテーマに絞ったが、私たちの行動には様々なつながりがある。JA 岩手ふるさとでは地道に「つながりの運動」に取り組んでいる。環境における取り組みだけでなく、組合活動においても同じ。相互扶助は組合の支柱となる精神であるが、この相互作用はまさにつながりなのだ。当 JA では、消費者ニーズへの対応も、消費者とのつながりと考えているし、環境保全も時を越えたつながりと考えている。

できることから地道に「つながりの運動」を始める。私たちにできる「つながりの運動」は何かを、雪解け水で増水した北上川を渡りながら考えていた。

最後に余談だが、私はずんだ団子（岩手県一ノ関産）をお土産に買いました。おいしかったので皆さん是非ご賞味あれ。



IES 登録証は部屋の真ん中に



この貼り紙も実は裏紙利用です

#### 【用語メモ】

ひとめぼれ：こしひかりと初星の交配種で宮城県生まれのお米。食味が良く、もちもちしていることで人気。

前沢牛：肉質日本一とも評される黒毛和種の肉用牛。前沢牛には細かい定義があるが、原則「旧前沢町在住の生産者が、同町で育てた牛で、JA 岩手ふるさとを經由して出荷された牛」のこと。

耕畜連携：耕種（主に田畑を使用して栽培される作物）部門と畜産部門との密接な連携のこと。以前は日本でも個々の農家が家畜を飼い、家畜の飼料は自家供給され、堆厩肥は農地に還元されていた。耕種と畜産という分類は、生産農業所得統計などで使用される。

e - Japan 戦略 (2001 年 1 月から): 高度情報通信社会ネットワーク推進戦略本部 (内閣官房に設置) において策定された国策。ネットワークインフラの整備により、その恩恵を実感できる社会の実現をめざしている。既に e - Japan 戦略 (2003 年 7 月から) IT 新改革戦略 (2006 年 1 月から) へと段階的発展を遂げている。

IES: いわて環境マネジメントシステム・スタンダードのこと。環境にやさしい事業活動のための規格を制定している。第一段階 (STEP ) を達成すると第 2 段階 (STEP ) へ進む。JA 岩手ふるさと STEP を取得済み。因みに IES の公式の英名はない。

ISO: 国際標準化機構 (International Organization for Standardization) のこと。世界共通の規格を設け、一定の条件が満たされれば認証を得られる。例えば環境についての規格として ISO14001 がある。ISO は国際的な機関だが、国際連合の機関ではない。

( 研究員 若林剛志 )